

～ フィッシング詐欺トピックス ～

同じような事例で、ユーザのデスクトップ画面に表示される警告画面の表示と、偽のスパイウェア駆除アプリケーションの種類が異なるものも複数報告されています。さらに、感染したユーザのパソコンに「メールリレー」がインストールされるパターンでは、何千というスパム・メールが自動的に発信されてしまうというものもありました。

今回の事例で利用された、WMF の脆弱性を狙ったクライムウェア・サイトですが、パッチが公開される前に瞬く間に広がり、世界中に何千サイトも作られるほど拡大していきました。この WMF の脆弱性に対して、当初 Microsoft は定例で公開している月次アップデートで対処すると発表していました。しかし、この脆弱性があまりに深刻な問題だったことから、公式パッチ公開前に Microsoft 外のセキュリティ企業から非公式パッチが公開される事態となり、Microsoft も月次アップデートでの公開予定を前倒してパッチをリリースすることとなりました。

WMF の脆弱性を利用した手口には、今回紹介した事例のようにクライムウェア・サイトに誘導する以外に、WMF 形式の画像ファイルを E メールに添付するものもあります。脆弱性が発覚したのが 2005 年 12 月であったことから、新年のグリーティングカードを装い「Happy New Year」という題名で、「Happy New Year.jpg」という不正な画像ファイルが添付された E メールを送信するという事例も報告されています。